

江戸川区消防団運営委員会議事録 要約

開催日時	令和6年3月22日（金曜日） 開会：14時58分 ～ 閉会：15時48分
開催場所	江戸川区役所5階 災害対策本部室
諮問事項	「変化する社会情勢に適用し、特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」
出席者 (19名)	委員長 齊藤 猛 委員 宇田川 聡史 (都議会議員) 田の上 いくこ (都議会議員) 上田 令子 (都議会議員) 小野瀬 二郎 (江戸川防火防災協会会長) 千倉 嘉一 (葛西防火防災協会会長) 松下 幸博 (小岩防火防災協会会長) 中野 ヘンリ (区議会議員) 田村 ひろし (区議会議員) 勝山 まゆみ (区議会議員) 牧野 けんじ (区議会議員) 川合 佐奈子 (区議会議員) 間宮 由美 (区議会議員) 野呂瀬 亮一 (江戸川消防署長) 黒崎 清貴 (葛西消防署長) 早坂 誠 (小岩消防署長) 渡邊 登 (江戸川消防団長) 関口 政男 (葛西消防団長) 佐藤 誠 (小岩消防団長)
傍聴者数	なし
配付資料	審議資料 (別紙のとおり)
次第	1 開会 2 委員長挨拶 3 新委員の紹介 4 報告 5 議事 諮問について 「変化する社会情勢に適用し、特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」 6 その他 (1) 江戸川区内消防団の現況 (2) 令和5年中の江戸川区内災害状況 (3) 消防団の主な教育訓練 (4) 特別区消防団の装備資機材について (5) 諮問事項に対するアンケート調査

	<p>(6) 江戸川区内消防団ポンプ積載車一覧</p> <p>7 閉会</p>
<p>審 議 内 容</p>	<p>5 議事 諮問について 「変化する社会情勢に適用し、特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」</p> <p>事務局 ○審議資料についての説明 ○今後の運営委員会の予定を説明</p> <p>事務局 検討の方向性として課題を2つ抽出し検討を進めたい。 1つ目の課題は地域防災の要である消防団として、変化及び成長していくためにはどうすべきかという点。 2つ目は今在籍する消防団の方々に対する計画的な人材育成方策はどうすべきかという点。</p> <p>委 員 今回消防団へのアンケートを実施するとのこととても良い方向であると思う。入団してもらえるためには、続けていただくためにはどうすれば良いかそのことこそ、このアンケートの中で一人ひとりに聞いていただければと思う。</p> <p>事務局 事務局の方で消防団の方たちに聞く内容を抽出しているが、来年度は今日の委員の方々の意見も踏まえ更に充実したものをと考えている。</p> <p>委 員 アンケートの中で消防団の分団倉庫の状況をぜひ聞いてほしい。分団倉庫に水道がない、電気がないことについては活動の質を引きあげられないことにつながると思う。</p> <p>事務局 江戸川区の消防団の施設については23区の消防団に比べると揃っている方だが、全部の分団倉庫に水道や電気が整っているわけではない。女性の団員も増えているため皆さんが活動しやすいよう設備の充実は考えていかないといけないので、アンケートの中で設備についても取り入れたい。</p> <p>委 員 江戸川区は水害への心配という点が区民の皆さんからも大きな関心事である。そういう中で江戸川区としても、各学校に1艘ずつボートを配置しているが、こういった区が配備しているボートについて、消防団の方が</p>

操船するというケースは今の時点では想定されているか。

事務局

今あるボートについては、小型船舶2級の資格がなくても操舵が可能であり、毎年ボートの操舵訓練を各団で実施している。

委員

毎年各団の操法大会に、私たちもお邪魔させていただいている。

その際に式典の部分で、私ども一人ひとりの名前を紹介していただくということはいつもしていただいているが、式典の部分がやや長くなってしまっているような印象も持った。式典の部分で紹介いただくということ自体は、地域の皆さんとのネットワークのつながりを確認するという貴重な機会でもあると考えるが、簡略化できる部分については名簿で代えるとかいうようなことも今後検討してほしい。

委員

Q5の中で、やりがいを感じる瞬間についてで、操法大会訓練があつて、不安に思うという中でも操法大会訓練がある。アンケートの結果としてこのQ12で不安に思っていることとして操法大会訓練が多く出た場合、操法大会訓練自体を取りやめるといった考えがあるのか。

事務局

アンケートの中で、もしこの操法大会に対しての不安が大きい、負担に感じるということが、団員の方たちから多く出た場合には、団長にご意見を伺い、団員の皆さんに寄り添うような結論に導いていけたらと考えている。

委員

諮問事項が検討の方向性にどのように反映されているのか伺いたい。設問事項から課題1、2そして検討事項へどのようにつながっていて、この課題を検討することによって何が答えとして導かれるのかという点を説明いただきたい。

事務局

まず、特別区において人口が減少していく中で、消防団については、常にそこが課題になっており人を集めるのに非常に苦労している状況である。なので、やりがいを持って取り組めるようにであったり、募集の広報をどうやっていくか、人集めの苦労に対しての検討がまず大事だということをこの中に入れている。

また高齢化について、今に始まった話でないが消防団で常に抱えている課題である。高齢化に向けては活動する団員の方たちが、無理なく使えるような資機材の軽量化であったり、機械をもっと簡便に動かせるような形で、活動の事故がない、安全にできるような活動に配慮した資材の整備を

検討していきたい。

また、DXの進展について、テレワークの働き方の多様化について、皆さんが日ごろ使ってるタブレットといった最新のDX資材も、消防団には配置している。そのタブレットをより使いやすくするために中のアプリの更新の検討を進めていくこと等、今の社会情勢が変化する中での消防団の新たなあり方の検討という中で、考えていきたい課題になっている。

また、単身世帯の増加、地域のコミュニティの希薄化についても、検討に上がっているが、江戸川区の消防団にあっては、別添6の資料にもあるが、町会の方から多くのご協力をいただいて、他の消防団にはないような町会の方たちからご協力いただいた消防車両を、各消防団に配置している状況である。よって地域とのつながりが他には見られないような密接なところがあるので、モデルケースとして検討、紹介という形で答申にまとめたいと考えている。

6 その他

事務局

(江戸川区内消防団の現況・江戸川区内火災・救助等災害状況の説明)

委員

江戸川区内の各団の現況ということでお示しいただいていますが、この各定員数について伺いたい。諮問そのものにも、人口減少社会が今後やってくることも言及があり、そもそもこの定員数のあり方が、どういう考え方によるものかを確認したい。定員自体は東京都の条例によって全部で1万6000人と決められているかと思うが、各区、各消防団については、人口比によって今の定員数が決められているのか、これまではこの定員数は何度か見直しが見直しがされてきているような経過があるのか聞きたい。

事務局

各団の定員数についてですが、東京都の条例で定められている。人口によって各消防団の定員は決まっており、見直しについては条例ができた時からされていないのが現状。

委員

人口そのものが減ってくる中で、この定員数のあり方も、見直しがこれまではされていないので、チェックの視点として、人口減少の中で定員そのものについても、検討の要素にしていく必要があると考える。

7 閉会